

# 令和6年度 岩手県水産技術センター業務方針

令和6年4月18日 作成

## I 組織プロフィール

### 1 組織の目的・役割

「いわて県民計画(2019～2028)」、第2期アクションプラン（2023年度～2026年度）及び岩手県水産試験研究中期計画（2024（R6）～2028（R10））に基づき、漁場環境から生産、加工、流通、消費に至るまでの一貫した調査研究と普及指導に取り組み、激変する海洋環境に対応した漁業及び水産流通・加工業の発展を支援していきます。

### 2 組織の主要な価値提供先（顧客）やビジネスパートナー

主要な顧客 : 漁業者、水産流通・加工業者及びその関係団体、県民（消費者）  
ビジネスパートナー : 漁協・漁連、水産流通・加工関係団体、市町村、県水産関係行政組織、各種コンソーシアム、全国の水産研究機関・団体、大学等

### 3 主要な価値提供先（顧客）ごとの提供すべき価値

- (1) 漁業者、水産流通・加工業者及びその関係団体【SNS、HP、研修会、出前講座、普及指導員を通じて提供】
- ア 漁船漁業者 : 資源管理手法、新たな漁法及び海況・漁場情報
  - イ 定置漁業者 : 経営改善情報、急潮情報及び資源管理手法
  - ウ 採介藻漁業者 : 資源増殖手法及び資源管理手法
  - エ 養殖業者 : きめ細かな養殖管理情報、種苗確保技術、新たな養殖技術、漁場環境評価に基づく漁場の適正利用方法
  - オ 流通・加工業者 : 高鮮度流通技術、品質向上技術及び加工技術
  - カ 増殖団体 : 回帰率（回収率）や経済性の高い種苗生産技術及び防疫手法
- (2) 県民（消費者）【SNS、HPで提供】
- 食の安全に関する調査結果、沿岸環境の実態及び水産資源の動向等に関する情報

#### 4 組織や業務を取り巻く環境とその変化

##### (1) 東日本大震災津波等からの復興状況

ア 東日本大震災津波や度重なる台風被害等からの漁業と流通業・加工業の一体的な復興が進みましたが、主要魚種の漁獲量は低迷しているほか、ワカメやホタテガイ等の養殖生産量、アワビやウニ等の採介藻漁業生産量は、震災前の水準には回復していません。

イ 漁業就業者は高齢化と後継者不足により、依然として減少傾向にあります。

##### (2) 近年の海洋環境変化の影響

ア 秋サケ、サンマ等主要魚種の漁獲が激減し、一方でマイワシ、タチウオ等の漁獲が増加するなど、資源動向が大きく変化しています。

イ 春季の高水温化や夏季の異常高水温によりコンブ群落が減少し、アワビ資源は低位で推移しています。

ウ 夏季～秋季の海水温上昇により、養殖ホタテガイのへい死が起こっています。

エ 麻痺性貝毒による出荷規制が広域化かつ長期化しています。

##### (3) 新たな養殖業の動き

ア 近年、県内では、静穏水域や水温の地理的優位性を生かした海面でのサケ・マス養殖が盛んになっています。

イ 本県での新たな養殖業振興に向け、アサリ種苗生産・量産技術の開発が進んでいます。

##### (4) 東京電力福島第一原発の影響及び為替、世界情勢の影響

ア ALPS 処理水放出に伴う中国の日本産水産物全面禁輸措置がいつまで続くか見通しが立ちません。

イ 円安による輸入品の価格上昇や原材料費の上昇、ロシアのウクライナ侵攻による国際情勢の不安定化や原油価格の上昇により、漁業者、流通・加工業者の経営環境は厳しくなっています。

##### (5) 県民の信頼回復

令和2年2月16日に、元職員が起こした酒気帯び運転・死亡事故事案により失墜した信頼を回復するため、組織一丸となって飲酒運転撲滅に取り組むとともに、業務で成果を出し続けていく必要があります。

## II 本年度の業務運営方針

### 1 業務における主要課題

項目 (何を)	達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成手段・方法 (重要なプロセス・チェックの方法など)	担当
1 漁業経営の高度化・安定化に関する研究開発 (1) 漁業・養殖業の経営改善に関する研究	<b>ア 養殖業経営体の収益性・効率性の向上に関する研究 (R6～R10)</b> ・養殖業経営体の経営改善  <b>イ 定置網漁業の収益性・効率性の向上に関する研究 (R6～R10)</b> ・定置網漁業経営体の経営改善	<b>ア 養殖業経営体の収益性・効率性の向上に関する研究</b> 養殖業経営体の収益性・効率性を向上させるため、経営分析を実施するとともに、経営改善に向けた提案を行う。 (ア) 本県養殖業経営体の経営分析 【4月～3月】 (イ) 他都道府県における協業化・法人化事例の調査 【4月～3月】  <b>イ 定置網漁業の収益性・効率性の向上に関する研究</b> 定置網漁業経営体の収益性・効率性を向上させるため、経営分析を実施するとともに、経営指導を実施可能な体制を整備する。 (ア) 漁協自営定置の収益性・効率性分析 【4月～3月】 (イ) 他都道府県における優良経営事例等の調査 【4月～3月】	企画指導部
(2) 県産水産物のマーケティングに関する研究	<b>ア マーケット・イン型養殖業の促進に関する研究 (R6～R10)</b> ・養殖業経営体の収益性向上  <b>イ サーモン養殖の新規参入促進に関する研究 (R6～10)</b> ・サーモン養殖のスムーズな新規参入の実現	<b>ア マーケット・イン型養殖業の促進に関する研究</b> 価格向上策や消費者ニーズに対応した出荷体制を促進するため、県産水産物のマーケティング分析を行う。 (ア) 県産水産物の流通・販売実態調査 【4月～3月】 (イ) 他都道府県における優良事例等の調査 【4月～3月】  <b>イ サーモン養殖の新規参入促進に関する研究</b> 地域に適したサーモン養殖の生産体制・コスト構造・販路等を明らかにするため、マーケティング分析や経営分析を行う。	企画指導部

		(ア) 他都道府県における優良経営事例等の調査 【4月～3月】 (イ) サーモン養殖への新規参入に係る意向調査 【4月～3月】	
2 食の安全・安心の確保に関する技術開発 (1) 二枚貝等の貝毒に関する研究	<b>ア 麻痺性貝毒原因プランクトン発芽抑制技術の開発 (R6～R10)</b> ・貝毒出荷自主規制期間の短縮による養殖貝類の安定出荷 <b>イ 貝毒モニタリング調査 (R6～R10)</b> ・貝毒の発生動向に応じた養殖貝類の計画的出荷	<b>ア 麻痺性貝毒原因プランクトン発芽抑制技術の開発</b> 貝毒原因プランクトンの発生量を減らすため、底生生物を活用したシスト減少効果について現場検証する。 (ア) シスト減少効果の高い底生生物の探索 【4月～3月】 <b>イ 貝毒モニタリング調査</b> 貝毒の発生動向に関する情報提供を行うため、貝毒関連項目（環境項目のほか、貝毒量、貝毒原因プランクトン数、Alexandrium 属シスト数）のモニタリングを行う。 (ア) 貝毒プランクトン出現状況の把握及び情報提供（35回/年） 【4月～3月】 (イ) ホタテガイ生産海域の貝毒プランクトン検査（51回/年） 【4月～3月】	漁場保全部
3 生産性・市場性の高い産地形成に関する技術開発 (1) 環境変化に対応した技術開発 ①海洋環境変化に対応したサケ資源の増殖技術の開発	<b>ア サケ資源の変動要因の解明 (R6～R10)</b> ・資源変動要因の解明及び放流技術の開発	<b>ア サケ資源の変動要因の解明</b> サケ資源の変動要因を解明するため、これまでに集めた耳石や鱗の成長解析、水温・塩分・動物プランクトンデータを解析する。 (ア) そ上親魚のモニタリング調査(1回/旬) 【10月～1月】 (イ) 幼稚魚追跡調査 【4月～3月】 ・稚魚の分布密度調査(岩手丸):沿岸0～5海里で表層トロール調査(4月～5月) ・飼育放流試験追跡調査(北上丸):唐丹湾、山田湾、野田湾及び久慈湾での火光利用敷網調査(4月～6月及び3月)	漁業資源部

	<p><b>イ 海洋環境の変化に対応できる強い種苗生産・放流技術の開発・普及（R6～R10）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境変化に対応したサケ稚魚の継続的生産と資源回復の実現</li> </ul> <p><b>ウ ふ化放流体制再編に伴うふ化場の有効活用手法の開発（R6～R10）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふ化放流技術の継承及びふ化場の継続的運営の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道沿岸調査(岩手丸):北海道沿岸の海洋観測と表層トロール調査（6月）</li> </ul> <p>(ウ) 資源の変動要因の再検討 <span style="float:right">【4月～3月】</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親魚の鱗、稚魚耳石による成長解析</li> <li>・環境データの収集・解析</li> </ul> <p><b>イ 海洋環境の変化に対応できる強い種苗生産・放流技術の開発・普及</b></p> <p>放流適期が短い環境下での回帰率向上を図るため、効果的な餌料の探索、高水温に強く、大型で遊泳力が高い種苗生産技術の開発、海中飼育技術の改良、移送放流などの試験を実施する。</p> <p>(ア) 飼育期間中の最適飼料の探求 <span style="float:right">【4月～5月、1～3月】</span></p> <p>(イ) 遊泳力を強化した稚魚の成長及び回帰率の把握 <span style="float:right">【4月～6月、3月】</span></p> <p>(ウ) 大目網生け簀による海中飼育の成長及び行動等の比較 <span style="float:right">【4月、3月】</span></p> <p>(I) ふ化場間での稚魚移動・北海道沖での移送放流試験 <span style="float:right">【4月～6月、3月】</span></p> <p><b>ウ ふ化放流体制再編に伴うふ化場の有効活用手法の開発</b></p> <p>新たなふ化放流体制下でのふ化場の有効活用を図るため、サケ稚魚の生産性向上と養殖用種苗の生産等の手法を検討する。</p> <p>(ア) 再編ふ化場の生産実態把握 <span style="float:right">【4月～5月、3月】</span></p> <p>(イ) 生産実績に基づく増殖戦略の提案 <span style="float:right">【4月～3月】</span></p> <p>(ウ) サケ大規模実証試験施設での有効活用の検討 <span style="float:right">【4月～3月】</span></p>	
--	---	---	--

<p>②海洋環境変化に対応した磯根資源の増殖に関する研究</p>	<p><b>ア 磯根資源への海洋環境変化に影響に関する研究 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海洋環境変化の影響を考慮した資源管理手法の確立と磯根資源の維持</li> </ul> <p><b>イ 効率的な藻場のモニタリング手法の開発 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な藻場造成の促進</li> </ul> <p><b>ウ 餌料海藻増殖手法の検討 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安定的な餌料海藻の繁茂による磯根資源の維持</li> </ul>	<p><b>ア 磯根資源への海洋環境変化に影響に関する研究</b></p> <p>磯根資源の資源管理を促進するため、長期にわたるモニタリング調査のデータに基づく海洋環境変化の影響を評価し、資源管理手法を提案する。</p> <p>(ア) 沿岸2地区(県北部、県中部)で潜水により生息量を把握 【7月～10月】</p> <p>(イ) モニタリングデータの解析と海洋環境変化の影響評価 【7月～3月】</p> <p><b>イ 効率的な藻場のモニタリング手法の開発</b></p> <p>藻場のモニタリングを効率化するため、ドローンや環境DNAを用いた調査手法を開発する。</p> <p>(ア) 環境DNAによるコンブの資源量及び遊走子の拡散状況の把握 【7月～3月】</p> <p>(イ) ドローン及び水中ドローンによる藻場調査の実施 【7月～9月】</p> <p><b>ウ 餌料海藻増殖手法の検討</b></p> <p>ウニ焼けの解消を図るため、ウニの有効利用手法と餌料海藻増殖手法を開発する。</p> <p>(ア) 光周期調節による成熟抑制技術を用いて、キタムラサキウニの出荷期間を延長させる蓄養方法の現場実証 【6月～10月】</p> <p>(イ) 藻場形成用のアラメ種苗生産技術の開発 【4月～3月】</p>	<p>増養殖部</p>
<p>③海洋環境変化に対応した海藻類養殖の安定生産に関する研究</p>	<p><b>ア 養殖ワカメの増産に関する研究 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産量の増大による漁家収入の増加</li> </ul>	<p><b>ア 養殖ワカメの増産に関する研究</b></p> <p>養殖ワカメを増産するため、半フリー種苗養殖技術の導入や養殖期間の延長を推進する。</p> <p>(ア) 県内種苗生産施設の半フリー種苗の安定生産の指導 【5月～12月】</p> <p>(イ) 半フリー種苗生産及び養殖試験の実施 【4月～3月】</p> <p>(ウ) 高水温耐性ワカメ系統の検証 【4月～3月】</p>	<p>増養殖部</p>

	<p><b>イ 海藻養殖の多様化に関する研究 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養殖種目の多様化による漁家収入の安定</li> </ul>	<p><b>イ 海藻養殖の多様化に関する研究</b></p> <p>海洋環境の変化に対応した海藻類の養殖を検討するため、ワカメ以外の海藻類での半フリー種苗養殖技術を開発する。</p> <p>(ア) コンブの半フリー種苗生産及び養殖試験の実施 【4月～3月】</p> <p>(イ) マツモ、ヒジキ、アカモク等種苗生産及び養殖試験の実施 【4月～3月】</p>	
④海洋環境変化に対応した貝類養殖の安定生産に関する研究	<p><b>ア ホタテガイの安定生産手法の検討 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地場採苗による種苗の安定確保及び高水温対策による養殖生産の維持</li> </ul> <p><b>イ マガキ養殖に関する新技術の導入 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マガキ養殖漁場の拡大による養殖生産の増大</li> </ul> <p><b>ウ 貝類養殖の多様化に関する研究 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貝類養殖の多様化による漁家収入の安定</li> </ul>	<p><b>ア ホタテガイの安定生産手法の検討</b></p> <p>ホタテガイの安定生産を図るため、地場採苗に必要な情報を提供するとともに、海洋環境変化に対応した養殖技術を開発する。</p> <p>(ア) ラーバ調査及び付着調査による、地場採苗に必要な情報の提供 【4月～8月】</p> <p>(イ) ホタテガイ養殖漁場での水深別の水温モニタリング 【6月～11月】</p> <p>(ウ) 高水温対策マニュアルの作成 【4月～3月】</p> <p><b>イ マガキ養殖に関する新技術の導入</b></p> <p>養殖マガキの生産量を増大させるため、シングルシードや三倍体等の新技術を活用したカゴ養殖技術を開発する。</p> <p>(ア) 三倍体種苗生産に関する情報収集 【4月～7月】</p> <p>(イ) 三倍体種苗生産及び養殖試験 【7月～3月】</p> <p><b>ウ 貝類養殖の多様化に関する研究</b></p> <p>環境変化や市場動向の変化に対応した貝類養殖を促すため、高水温に強い新たな種の貝類養殖技術を開発する。</p> <p>(ア) 県内3～5カ所でのアサリ養殖試験指導 【4月～3月】</p>	増養殖部

		(イ) 岩手県栽培漁業協会でのアサリ種苗生産試験指導 【4月～2月】 (ウ) アサリ高成長系統での種苗生産 【7月～3月】 (I) 新たな貝類養殖種に関する情報収集及び試験養殖 【4月～3月】	
⑤漁獲が増加している資源及び未利用資源の有効利用に関する研究	<b>ア 漁獲が増加している資源及び未利用資源の生態特性の解明と新規漁法の導入 (R6～R10)</b> ・漁獲が増加している資源に対応した漁具及び漁法を漁業者へ提案することによる漁業の多角化を促進  <b>イ 漁獲が増加している資源及び未利用資源の加工原料としての評価・加工品開発 (R6～R10)</b> ・漁獲が増加している魚種及び低・未利用資源の利用促進	<b>ア 漁獲が増加している資源及び未利用資源の生態特性の解明と新規漁法の導入</b> 海洋環境の変化に対応するため、漁獲が増加している資源に応じた漁具の改良や新たな漁法の導入を検討・普及する。 (ア) 漁獲が増加している魚種に対応した漁具・漁法の情報収集 【4月～3月】 (イ) 新たな漁具・漁法による試験操業 【4月～3月】 (ウ) 新たな漁具・漁法の普及 【4月～3月】  <b>イ 漁獲が増加している資源及び未利用資源の加工原料としての評価・加工品開発</b> 前浜資源の有効利用を図るため、漁獲が増加している魚種及び低・未利用魚種の原料特性及び加工特性を把握するとともに、加工技術・加工品の開発及びマニュアル化に取り組む。 (ア) タチウオの粗脂肪把握と加工品にした場合の品質評価 【4月～3月】 (イ) テナガダラ等未利用魚の原料特性把握及び酵素分解による調味エキスの調製と品質評価 【4月～3月】	漁業資源部 利用加工部
(2) 水産生物の病虫害防除に関する研究	<b>ア 海面増養殖における防疫に関する研究 (R6～R10)</b> ・病虫害の早期発見や防除対策の実施による、種苗生産及び養殖	<b>ア 海面増養殖における防疫に関する研究</b> 海面増養殖(魚類、介類、藻類)における病虫害の被害を軽減するため、発生状況の把握と防除対策を検討する。	増養殖部



	<p>生産の安定化</p> <p><b>イ 付着生物の防除に関する研究 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付着生物被害の低減による養殖生産物の品質向上</li> </ul>	<p>(ア) 県内海面増養殖における魚病診断の実施 【4月～3月】</p> <p><b>イ 付着生物の防除に関する研究</b></p> <p>養殖生産の付着物被害を軽減するため、ヨーロッパザラボヤやフジツボの付着状況の把握と、防疫対策を検討する。</p> <p>(ア) ヨーロッパザラボヤ及びフジツボの付着状況調査の実施 【4月～3月】</p> <p>(イ) ヨーロッパザラボヤの付着軽減試験の実施 【6月～10月】</p>	
<p>4 水産資源の持続的利用に関する技術開発</p> <p>(1) 漁海況の中長期的な変化とその要因に関する研究</p>	<p><b>ア 海洋観測データの収集と整理 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変化する海洋環境の理解促進と水産業の経営戦略への活用</li> </ul> <p><b>イ 漁獲量データの収集と整理 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚市場毎の漁獲状況及び体長組成等を把握し、漁業者及び加工業者へ広報することにより、漁業及び水産加工業の経営安定を促進</li> <li>・長期漁獲物組成と海洋観測結果を解析することにより、漁況の予測手法の確立及び精度向上</li> </ul>	<p><b>ア 海洋観測データの収集と整理</b></p> <p>海洋環境を把握するため、岩手丸定線観測、北上丸動物プランクトン調査を実施し、漁業者等へ広報するとともに、データベースを作成し統計的解析を行う。</p> <p>(ア) 岩手丸による定線観測の実施と広報 (1回/月) 【4月～3月】</p> <p>(イ) 北上丸による定点観測と広報 (2回/月) 【4月～3月】</p> <p>(ウ) 急潮のモニタリングと広報 (随時) 【4月～3月】</p> <p>(I) モニタリングデータの整理 (100m深基準層) 【4月～3月】</p> <p><b>イ 漁獲量データの収集と整理</b></p> <p>時期別・魚種別漁獲量を把握するため、漁獲状況を取りまとめ、漁況速報を広報する。また、漁況の予測及び精度向上を図るため、長期の漁獲物組成と海洋観測結果との統計的解析を行う。</p> <p>(ア) 漁況データの整理 (定置網の漁場または市場別漁獲量) 【4月～1月】</p> <p>(イ) 漁獲物組成と海洋観測結果との統計的解析 【4月～3月】</p>	<p>漁業資源部</p>

	<p><b>ウ 漁場探索データの収集と整理 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型漁船漁業の効率的な操業の実現</li> </ul>	<p><b>ウ 漁場探索データの収集と整理</b></p> <p>漁業者の効率的な漁場探索に資するため、岩手丸でのイカ釣り及び北上丸でのイカ釣り・カゴ・延縄漁場探索調査を実施し広報する。</p> <p>(ア) 漁場探索調査（イカ釣り）実施と広報 【6月～9月】</p> <p>(イ) 漁場探索調査（カゴ）の実施と広報 【5月～3月】</p> <p>(ウ) 漁場探索調査（延縄）の実施と広報 【5月～3月】</p> <p>(I) イサダ等計量魚探データの整理 【4月～3月】</p> <p>※ア、イより行われる漁海況予測の精度を検証することが可能なデータを取得</p>	
<p>(2) 水産資源の持続的利用のための評価・管理技術の開発</p>	<p><b>ア 底魚資源の評価と管理に関する研究 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋環境により変動する資源の持続的利用の促進</li> <li>・漁獲が増加している資源の持続的利用の促進</li> </ul> <p><b>イ 浮魚資源の評価と管理に関する研究 (R6～R10)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋環境により変動する資源の</li> </ul>	<p><b>ア 底魚資源の評価と管理に関する研究</b></p> <p>水産資源の持続的利用を図るため、県の資源管理対象魚種及び東北海域の資源評価対象魚種の資源評価を行う。また、変化する海洋環境に対応するため、近年、漁獲対象として期待される新規魚種等の生態学的特性（分布、成長、成熟）を把握する。</p> <p>(ア) 市場調査及び調査船調査によるモニタリングと資源評価 【4月～3月】</p> <p>※国に資料提供、アイナメ、アブラボウス、チゴダラは岩手県が評価担当</p> <p>(イ) 県独自の資源の評価 【1月～3月】</p> <p>※タラ類、ヒラメ、カレイ類、ミズダコ、ケガニ</p> <p>(ウ) 漁獲対象として期待される新規魚種等の生態学的特性 【4月～3月】</p> <p>※マダコの情報収集、漁海況予測の検討・試行</p> <p><b>イ 浮魚資源の評価と管理に関する研究</b></p> <p>水産資源の持続的利用を図るため、国が資源評価を行う高度回遊性魚類の定期的な精密測定を実施する。ま</p>	<p>漁業資源部 増養殖部</p>

	<p>持続的利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁獲が増加している資源の持続的利用の促進</li> </ul> <p><b>ウ 収益性が高い磯根資源の漁獲管理方策の検討（R6～R10）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より収益性の高い漁獲管理方策の導入による漁家収入の向上</li> </ul>	<p>た、変化する海洋環境に対応するため、近年、漁獲対象として期待される新規魚種等の生態学的特性（分布、成長、成熟）を把握する。</p> <p>(ア) 市場調査及び調査船調査によるモニタリングと資源評価 【4月～3月】</p> <p>※国に資料提供</p> <p>(イ) 漁獲対象として期待される新規魚種等の生態学的特性 【4月～3月】</p> <p>※マイワシの資源生態に関する情報収集</p> <p><b>ウ 収益性が高い磯根資源の漁獲管理方策の検討</b></p> <p>収益性の高い磯根資源の漁獲方策を検討するため、漁獲データによる漁協単位での資源解析を実施する。</p> <p>(ア) 資源解析技術を普及し、資源解析によるアワビ資源動向予測と資源経済モデルによる収益性向上の取り組みを支援 【4月～3月】</p> <p>(イ) 資源解析及び資源経済モデルの改良 【4月～3月】</p>	
<p>5 いわてブランドの確立を支援する水産加工技術の開発</p> <p>(1) 県産水産物の特徴を生かした流通・加工技術に関する研究</p>	<p><b>ア 県産水産物の呈味成分に関する研究（R6～R10）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産水産物の利用促進</li> </ul> <p><b>イ 県産水産物の特徴を生かした加工技術・加工品の開発に関する研究（R6～R10）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産加工品の高度化および高付加価値化</li> </ul>	<p><b>ア 県産水産物の呈味成分に関する研究</b></p> <p>県産水産物の販路拡大等の取り組みを支援するため、呈味成分を分析する。</p> <p>(ア) 養殖ワカメの遊離アミノ酸組成の把握 【4月～3月】</p> <p>(イ) 海産および河川遡上サクラマスの遊離アミノ酸組成の把握 【4月～3月】</p> <p><b>イ 県産水産物の特徴を生かした加工技術・加工品の開発に関する研究</b></p> <p>水産加工業者の商品開発を支援するため、県産水産物の特徴を活かした加工技術・加工品の開発及びマニュアル化に取り組む。</p> <p>(ア) 企業訪問等による水産加工に関するニーズ調査の実施 【4月～3月】</p>	<p>利用加工部</p>

		(イ) 県産水産物の素材を活かしたレトルト技術等による加工品開発 【4月～3月】	
(2) 低・未利用資源の有効利用に関する研究	<b>ア 漁獲が増加している資源及び未利用資源の加工原料としての評価・加工品開発（R6～R10）【再掲】</b> ・漁獲が増加している魚種及び低・未利用資源の利用促進	<b>ア 漁獲が増加している資源及び未利用資源の加工原料としての評価・加工品開発【再掲】</b> 前浜資源の有効利用を図るため、漁獲が増加している魚種及び低・未利用魚種の原料特性及び加工特性を把握するとともに、加工技術・加工品の開発及びマニュアル化に取り組む。 (ア) タチウオの粗脂肪把握と加工品にした場合の品質評価 【4月～3月】 (イ) テナガダラ等未利用魚の原料特性把握及び酵素分解による調味エキスの調製と品質評価 【4月～3月】	利用加工部
(3) 県産水産物の品質の維持・安定化に関する研究	<b>ア 養殖ワカメや塩蔵製品の品質に関する研究（R6～R10）</b> ・養殖ワカメの品質の維持・安定化及び生産量拡大 ・塩蔵ワカメの品質の維持・安定化  <b>イ 塩蔵海藻の保存性に関する研究（R6）</b> ・養殖ワカメの保存性の向上	<b>ア 養殖ワカメや塩蔵製品の品質に関する研究</b> 養殖ワカメの安定生産及び増産等を支援するため、養殖ワカメの収穫時期毎の原料を把握し、品質に関する研究を行う。また、漁協や漁業生産者の塩蔵製品の品質の維持・安定化を図るため、塩蔵海藻の品質に関する研究を行う。 (ア) 高水温下の影響を把握するための原藻 pH やクロロフィル含量の基礎データの収集および塩蔵ワカメの水分や塩分等の品質調査の実施 【4月～3月】  <b>イ 塩蔵海藻の保存性に関する研究</b> 塩蔵ワカメ等の保存性の向上と品質維持を図るため、保管中に増殖する好塩性カビの増殖防止技術の普及・指導を行う。 (ア) 塩蔵海藻に増殖する好塩性カビの増殖防止対策マニュアルの作成・公表 【4月～3月】	利用加工部

<p>6 恵まれた漁場環境の維持・保全に関する技術開発 (1) 養殖漁場の環境評価に関する研究</p>	<p><b>ア 主要な養殖漁場における底質評価手法の開発 (R6～R10)</b> ・漁場の底質環境の把握による介藻類・魚類養殖生産の安定化</p> <p><b>イ 重点監視水域の環境把握 (R6～R10)</b> ・貝類養殖生産の安定化</p> <p><b>ウ 養殖漁場における底質改善手法の開発 (R6～R10)</b> ・養殖漁場の底質改善による養殖生産物のへい死低減</p>	<p><b>ア 主要な養殖漁場における底質評価手法の開発</b> 主要養殖漁場の底質環境の経年変化を把握するため、主要湾において定期的に調査、評価を行う。また、魚類養殖の拡大に伴う漁場環境への影響を把握するため、主要湾において定期的に調査、評価を行う。</p> <p>(ア) 広田湾における底質環境調査 [9月～2月] ・理化学分析(全硫化物、COD、粒度組成等分析)及び底生生物分析(委託)</p> <p><b>イ 重点監視水域の環境把握</b> 県漁場環境保全方針に定める重点監視水域である大船渡湾及び釜石湾の環境変化を把握するため、定期的に調査、評価を行う。</p> <p>(ア) 水質調査(水温、塩分、DO) [4月～3月] (イ) 底質調査(全硫化物、COD、粒度組成及び底生生物分析) [10月～2月]</p> <p><b>ウ 養殖漁場における底質改善手法の開発</b> 底質環境の悪化による養殖生産物のへい死等を防止するため、既存の底質改善材を用いた底質改善効果について検討する。</p> <p>(ア) 底質改善材による底質改善試験 [4月～2月]</p>	<p>漁場保全部</p>
<p>(2) 養殖生産安定のための環境把握技術に関する研究</p>	<p><b>ア 海藻類養殖漁場における栄養塩環境予測技術の開発 (R6～R10)</b> ・海藻類養殖の工程毎に必要なとされる栄養塩情報の提供による適正な種苗管理、収穫時期の把握の実現と養殖ワカメ等の生産安定</p>	<p><b>ア 海藻類養殖漁場における栄養塩環境予測技術の開発</b> 藻類養殖生産量の安定・増大のため、より効率的な養殖漁場の栄養塩観測技術の開発及び栄養塩予測技術の向上及び養殖管理に必要な情報提供を行う。</p> <p>(ア) 吉里吉里漁場における栄養塩調査 [4月～3月] ・水深0、10、20、30mの水温、栄養塩を測定し、関係機関へ情報提供</p>	<p>漁場保全部</p>

	化を促進	(イ) 沿岸定線観測による栄養塩調査 ・岩手丸により採水し、栄養塩分析を行い、情報提供 【4月～3月】 (ウ) 栄養塩供給予測 ・水産資源研究所が開発した栄養塩供給予測モデルで栄養塩供給予測及び周知（2回/年） 【9月～3月】 (I) 栄養塩測定技術講習会の開催 【9月】 (オ) 栄養塩測定に係る指導、相談への対応 【4月～3月】	
(3) 「海業」の促進に係る調査研究	<b>ア 「海業」の促進に係る調査研究（R6～R10）</b> ・海業の促進による漁村地域における所得向上および雇用創出の促進	<b>ア 「海業」の促進に係る調査研究</b> 漁村地域における所得向上および雇用創出を促進するため、海業の先進事例分析を行い、収益確保に寄与する仕組みの解明に取り組むほか、本県における適用可能性について検証する。 (ア) 他都道府県における海業先進事例の調査 【4月～3月】 (イ) 本県における海業の実施に係る意向調査 【4月～3月】	企画指導部
7 漁村復興を担う地域リーダーの活動支援及び新規就業者の定着支援	<b>ア 漁業士会の活動支援等（R6～R10）</b> ・地域漁業を担う中核的漁業経営体の育成 <b>イ いわて水産アカデミー研修生の知識・技術習得支援（R6～R10）</b> ・地域をリードする意欲ある漁業担い手の育成と地域への定着	<b>ア 漁業士会の活動支援等</b> 漁業士育成のため、各種支援を行う。 (ア) 漁業士会理事会（3回/年）、総会・研修会（1回/年）の開催を支援 【4月～3月】 (イ) 漁業士養成講座（1回/年）を開催 【7月～10月】 <b>イ いわて水産アカデミー研修生の知識・技術習得支援</b> 漁業担い手対策のため、水産アカデミー運営協議会の活動を支援する。 (ア) いわて水産アカデミー運営協議会の活動を関係機関と連携して支援（集合研修の実施等） 【4月～3月】	水産業普及指導員
8 広報機能の強化	<b>ア 広報機能の強化（R6）</b> ・当センターの取組に対する理解促進	<b>ア 広報機能の強化</b> 各種情報発信ツールを用いて広報機能を強化する。 (ア) 新しく開設した積極的な SNS の活用 【4月～3月】	企画指導部

		(イ) 積極的な視察研修の受入や一般公開デーでの PR 【4月～3月】 (ウ) SNS での情報発信や動画の作成・公開などを通じた漁業指導調査船の PR 【4月～3月】	
9 試験研究課題の推進	<b>ア アウトリーチ及び試験研究実施要望の把握 (R6)</b> ・現場ニーズに対応した調査・研究等取組による水産業の持続的発展	<b>ア アウトリーチ及び試験研究実施要望の把握</b> 漁協等に訪問して、試験研究成果を提供するとともに要望を把握する。 (ア) 成果提供と要望把握のための漁協等訪問 【5月～6月、9月、11月】	企画指導部

## 2 組織運営課題

### (1) 職員憲章の実現

職員憲章	取組内容・ねらい
県民本位	漁協等に訪問し試験研究成果を提供するとともに要望を把握し、現場ニーズに対応した調査・研究等に取り組みます。研究成果等を所内で共有するとともに現場へ迅速に還元し、県民へも積極的に情報発信します。
能力向上	関係大学や国の研究者等との連携を強化し、各種研究や技術開発を促進します。各種学会や研修等に積極的に参加し自己の能力向上に努め、新たな課題へ果敢に挑戦します。
明朗快活	普段から円滑なコミュニケーションを図り、職員間の対話や提案を活発に行います。
法令順守	研究倫理研修を開催し公正な研究活動の実施に努め、信頼ある技術と情報を提供します。交通安全研修を開催するとともに交通関係法規の遵守に努め、「飲酒運転撲滅」を推進し「無事故無違反」を実践していきます。
地域意識	被災公所に勤務する職員として、積極的に津波の伝承に努めるとともに、防災対策を実践していきます。

(2) 働き方改革の実現

項目	実施内容等	業務見直し、業務効率化に係る指標及び目標値														
業務効率化	<p>職員の能力向上</p> <p>(1) 積極的に研修や研究会に参加し、個人のスキルアップを図る。</p> <p>(2) 職員間で計画的に専門技術の共有、継承・移転を図る。</p> <p>(3) 職員を対象とした所内研修会を開催し、組織パフォーマンスを向上させる。(第1四半期)</p>	<p>・事業の進め方に関する視点</p> <table border="1" data-bbox="922 363 1986 469"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>基準値(基準年度)</th> <th>R6目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>複写用紙の購入枚数</td> <td>230,000枚(R2)</td> <td>149,500枚</td> </tr> </tbody> </table> <p>・県民サービス向上に関する視点</p> <table border="1" data-bbox="922 552 1986 657"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>基準値(基準年度)</th> <th>R6目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HPへの情報提供(海況情報等)</td> <td>591(R5)</td> <td>650</td> </tr> </tbody> </table>			指標名	基準値(基準年度)	R6目標値	複写用紙の購入枚数	230,000枚(R2)	149,500枚	指標名	基準値(基準年度)	R6目標値	HPへの情報提供(海況情報等)	591(R5)	650
	指標名	基準値(基準年度)	R6目標値													
複写用紙の購入枚数	230,000枚(R2)	149,500枚														
指標名	基準値(基準年度)	R6目標値														
HPへの情報提供(海況情報等)	591(R5)	650														
ワーク・ライフ・バランス	<p>定時退庁と有給休暇取得の促進</p> <p>(1) 令和6年4月中に、定時退庁及び休暇取得しやすい職場環境を整える。</p> <p>(2) 所長が「働き方改革の推進&amp;ワーク・ライフ・バランスの実現」に向けたキックオフ宣言(4月12日)を行うとともに、所内・船内にポスターを掲示する(4月)。毎週水曜日と金曜日を「か・えるの日(定時退庁日)」に設定し、当日は、啓発マスコット「浜びよん」を担当職員が掲出する。</p> <p>(3) 各部長等は率先して年次休暇15日以上の取得を目指し、職員の計画的な年次休暇取得環境を整える(通年)。6~10月の5ヶ月間を「夏季長期連続休暇取得督励期間」と位置づけ、全職員が取得計画を作成し、計画の達成を目指す。</p> <p>(4) 令和7年3月までに、年次休暇の15日以上取得を目指す。</p>	<p>・働き方改革の推進に関する視点</p> <table border="1" data-bbox="922 740 1986 903"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>基準値(基準年度)</th> <th>R6目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1人当たり超過勤務時間数</td> <td>65.6時間/人(R5)</td> <td>62.0時間/人</td> </tr> <tr> <td>1人当たり年次休暇取得日数</td> <td>16.4日/人(R5)</td> <td>15.0日/人</td> </tr> </tbody> </table>			指標名	基準値(基準年度)	R6目標値	1人当たり超過勤務時間数	65.6時間/人(R5)	62.0時間/人	1人当たり年次休暇取得日数	16.4日/人(R5)	15.0日/人			
	指標名	基準値(基準年度)	R6目標値													
	1人当たり超過勤務時間数	65.6時間/人(R5)	62.0時間/人													
1人当たり年次休暇取得日数	16.4日/人(R5)	15.0日/人														



(3) 内部統制

内部統制の目的を達成するための年間取組目標	
年間取組目標	目標を達成するための具体的方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率的かつ適正な遂行</li> </ul>	<p>「業務委託等事業進行管理表」を用いて、当所が発注する全ての研究業務委託、施設管理業務委託、修繕工事の進捗状況を記録・管理し、事務の遅延等不適切な事案を防止する。</p> <p>(実施手順)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務担当者は、進捗状況を記録する。</li> <li>・各担当部長は、定期的に「管理表」を確認し必要な指示を行う。</li> <li>・所長及び副所長は、定期的に「管理表」を確認し担当部長に必要な指示を行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物品の適正な管理</li> </ul>	<p>購入物品について、複数名での納品検収を徹底するとともに、特に医薬外毒物・劇物の取扱いに関しては「岩手県水産技術センター医薬用外毒物劇物危害防止規定」に基づき、使用状況の記録、適正な保管・管理を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私用車使用届出簿」変更の適切な手続き</li> </ul>	<p>「私用車使用届出簿（様式第1号）」の記載事項及び添付関係書類（車検証等）に変更が生じた場合は、再提出・再決裁を適時・適切に行う。</p>